

優 秀 賞

「 意味 」

経営学科 2 年 名雲 紫蘭（ペンネーム）

11 年ほどやっていたピアノをやめた。やめた理由はいくつがあるが、中学受験で忙しくなりピアノを弾く時間が取れなかったのが大きな要因の一つだと思う。そこからずるずると惰性で続け、ついに去年の夏に辞めた。特に未練は無かったが、今までの時間が無駄だったように感じた。コンテストなどにも出場したこともあったが、本番になりピアノの前に座ると、暗譜していた曲が一音残らず吹き飛んだ。それがトラウマになり人前で弾くこともなくなっていた。

大人たちがよく言う、「続けることが大切」みたいな言葉も、結果が出ないと意味はない。私のように惰性で続けていてもまったくもって無意味であり時間の無駄なのだと、11 年かけてようやく気付いた。

しかし、ある日、大学で仲良くなった友人に、駅のストリートピアノで何か弾いてくれと頼まれた。トラウマも克服しておらず、楽譜も調律もろくにされていないピアノでは、恥をかくだけだと思い断ったのだが、何でもいいからと強く懇願され、嫌々ピアノの前に座った。そして、パイレーツオブカリビ안의テーマ曲を右手だけ弾いてやった。嫌な汗が、穴という穴から吹き出てきた。正直に言って、出来はひどいものだった。1 分にも満たない時間なのにもかかわらず、何度も指が絡まり、小学生が人差し指で適当に音を鳴らしたような演奏だった。それでも友人は大きな拍手で褒めてくれた。私は何とも言えない幸福感に包まれた。多分私は、惰性ではあるものの、11 年も続けてきたピアノは無駄じゃないと認めてほしかったのだろう。と、あの時の幸福感の正体を自己分析した。それ以降もピアノには触れていない。今更弾くのもピアノに失礼な気がした。しかし私は、考えを改めることにした。続けたことに意味があるかはまだわからないが、続けなければ、少なくともあの幸福感は味わえなかったのだから。